

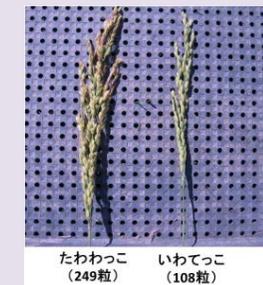
【全体概要】

岩手県北地域で栽培されていた飼料用水稻品種は倒伏しやすい課題があったため、平成30年から耐倒伏性に優れた新品種「たわわっこ」の栽培が開始された。本事業では、生産者及び実需者をはじめとする関係者が連携し、新品種・新技術の評価を通じて、省力低コスト・安定的な高単収の確保等を実現できる「強み」のある産地を形成する。

新品種・新技術等の概要

●「たわわっこ」の品種特性

- ・熟期「早生の晩」
- ・耐倒伏性「強」
- ・「穂重型」の多収品種
(農林水産省委託プロジェクト研究「国産飼料プロ」により育成)



※いわてっこ：県北地域の主要な主食用品種

●検討技術の概要

- ・追肥重点型の施肥体系、緩効性肥料を用いた省力施肥体系
- ・乾燥調製コスト削減や作業分散に向けた立毛乾燥技術の適応性
- ・育苗コスト削減に向けた高密度播種苗移植の適応性

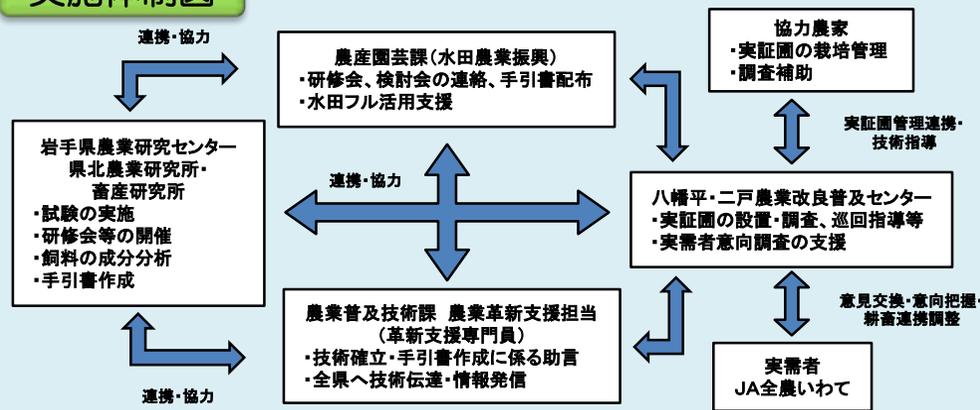
主な取組内容

- ・実証圏を活用した「現地研修会」の開催
- ・普及組織と連携した新品種の特性把握
- ・課題把握と次年度に向けた「実績検討会」
- ・産地・実需者の意向・ニーズ等調査
- ・飼料成分分析結果に基づくPR
- ・栽培手引書の作成



生産者を交えた現地研修会

実施体制図



実績と今後の展開

●実績

- ・目標収量(粗玄米で700kg/10a)確保のための施肥法や各種コスト(育苗、追肥、乾燥調製)の低減技術を取りまとめ、研究成果として公表した。
- ・研究成果に現地事例を加えて、栽培手引書を作成し、生産者等に配布した。

→岩手県内における飼料用米専用品種作付面積における「たわわっこ」導入面積が占める割合は、H30時点で39.2%だったが、R2は53.4%となり、着実に普及が進んでいる。

●今後の展開

- ・耐倒伏性に優れ、多収を実現できる「たわわっこ」の普及・定着を通じて、中山間地域を含めた広い栽培地域において、低コストで持続的な飼料用米生産体系が確立される産地づくりを目指す。
- ・「たわわっこ」の普及・定着に向けて、農業革新支援担当、普及センター、実需者らと連携し、実証内容の波及や現地課題の継続的な聞き取り、解決手法の検討・実証を行う。